

# 舩五山茶に新ラベル案

## 御嵩の上之郷中生と名芸大生ら

校区内の茶園で「舩五山茶」の栽培を長年続ける御嵩町中切の上之郷中学校で五日、茶のパッケージの新デザインを考える授業があった。名古屋芸術大(愛知県北名古屋市)の教員と学生が来校、アドバイザーした。

茶園は一九五六(昭和三十二年)、当時の摘み、茶もみなどを体校長の発案で開墾が始まった。総面積一畝。袋詰めした茶は販売も地域住民らが栽培に協

(神谷慶)



⑤大学生らの助言を受け、舩五山茶のパッケージデザインを考える生徒たち ⑥生徒たちが考えたデザインの一部=いずれも御嵩町の上之郷中で



していく事業の一環で、町が名芸大デザイン学部の教員二人と学生五人を招いた。同

部は昨年度も、御嵩町が題材のかるたを共同制作している。

一、二年生二十七人が参加。茶の印象や魅力を書き出し、味わって色と香りを確かめたり、茶葉を手にとったりした後、今あるロゴの周囲に色鉛筆やマーカーを走らせ

## 町内外にPRへ「香り」「伝統」表現

「は」などと提案した。一人ずつ発表した生徒たちは「香りを模様で表した」「六十年の伝統を階段で表現した」などと狙いを語った。

味と茶園の風景を緑のグラデーションで描いた猪野日向子さん(四)は「お茶のことを改めて考え、貴重な経験をさせてもらっていると再認識した。私たちが考えた絵が、PRに少しでも役立てばうれしい」と期待を込めた。

同学部は、生徒が考えたデザインを参考にしながら来年から使われる予定の新パッケージを完成させる。三年の羽田侑可さん(三)は「体験に基づく発想がどんどん出てきて驚いた。生徒たちの絵やイメージを生かし、魅力が伝わるデザインを生み出したい」と意気込みを語った。

三年生は同日、舩五山茶の色を学び、塗り替える計画がある校舎植え込み部分の色を考える授業を受けた。